

## 野川 春爛漫



3.31 満開のソメイヨシノ

### 野川の桜

野川沿いには立派なソメイヨシノの並木があり、昼は家族連れが河原でお弁当を食べ、夜のライトアップでは大勢の花見客が列をなします。先日「野川芝桜の会」による講演会、「野川の桜はいつからあるの？」に伺いました。

地元の有志が植えた、ということをご存知の方も多いと思いますが、いっどうしてのお話を始めて聞くことが出来ました。

野川は昭和30年代まで度々氾濫し、田んぼを浸水させていたそうですが、住宅が立ち並び始めるとその被害が問題になるようになりました。折しも東京オリンピックの開催が決まり代々木のワシントンハイツの敷地に施設を作ることになりましたが、それまであった米軍の宿泊施設は関東村（現・味の素スタジアムのあたり）に移されることになったそうです。市としては当初反対を表明していたのですが、結局国をあげてのオリンピックという大行事を成功させるためそれを受け入れることにし、その見返りとして野川の治水工事をお願いしたそうです。そして立派に完成した野川沿いに「桜を植えよう」と10人ほどの市民が立ち上がり建設省に申請し、なんとか桜を植える許可を取り付けました。そして昭和44年に400本ほど植えたということです。今では240本ほどになってしまったそうですが市民の力で作られた桜並木はめずらしいとのこと。

ソメイヨシノは最もよくみられる桜だと思いますが、重たい枝が垂れ下がる性質があり、川辺でこれに見栄えのする樹木です。これからこの調布名物を市民の力で守っていききたいですね。



### ホトケノザ

河川敷や護岸ブロックに咲いている。以前、七中あたりに白いホトケノザが出ていたのだが今年はどうだろう。

### セイヨウアブラナ

葉が茎を抱いているので見分けがつく。セイヨウカラシナよりやや先に咲き始めるようだが、同じ場所にセイヨウカラシナも出てくるので、分かりにくい。「何年も前に種を撒いた」という方がいて、一時は河川敷が黄色に染まったが、この頃は少し減ってきたように思われる。

### キタテハ（秋型）

冬を越したキタテハは大きくたびれたようすで近づいても逃げない。幼虫（毛虫）はカナムグラというザラザラの葉を食べるとか。

ミシシippアカミミガメ（幼体はミドリガメともいう）

気分よく日向ぼっこだが、水生植物を食べつくすとか、驚いたことに水鳥の幼鳥を飲み込むとか、あまり歓迎されない。要注意外来生物。

### 摘み草する御婦人

「何を採っていらっしゃるんですか」とサイクリングロードから声をかけたら「セリ」との答え。オランダガラシの間違い？と思つて降りて見たらホントにセリが。オオカワデシヤの葉も青々としていました。

# 花の履歴書 31

戸部英貞 (絵・文)

## ヤブツバキ

(藪椿)

ツバキ科



Camellia japonica L.

日本人とツバキの関係は古く、「古事記」や「日本書紀」にも登場し、昔は正月の卯日に「卯杖」で邪気を払う行事が行われ、ツバキの杖が用いられたとあり、正倉院にはその杖が納められている。

知られている。

その中心は中国で、日本はツバキ属の北限域に当たり、青森県の夏泊半島、秋田県の男鹿半島のヤブツバキ群落が「ツバキ自生北限地帯」として国の天然記念物に指定されている。

当時ツバキは「海石榴」の文字が使われているが、これは隋、唐の時代、中国では他国から海を渡ってきたものに「海」を付けて呼ぶ習慣があり、日本から遣隋使や遣唐使がツバキを持ち帰り、その中国名「海石榴」が日本に伝わったのではないかとされている。ツバキ属 (Camellia) の分布はアジア東部から東南アジア (揚子江流域からインドシナ半島、西端はネパール) の温暖で湿度の高い地域、いわゆる照葉樹林気候地帯を中心にして二百種以上の自生が

現在世界で栽培されている園芸品種は一万品種を超え、その母種となっているのがヤブツバキで、一口にツバキと言えばヤブツバキを指している。

ヤブツバキの分布は青森

県から南は本州、四国、九州、屋久島、朝鮮、中国の南部に自生がみられ、日本海側の秋田県から滋賀県北部の多雪地帯には変種のユキツバキが自生し、新潟、富山、石川各県には、これを母種とする園芸品種が多く見られる。

和名の「ツバキ」は厚葉

樹 (あつばき)、艶葉樹 (つやばき) が訛ったものとされ、「椿」の字は春に花が咲く樹を表す国字で、漢字の「椿」は春の新芽を摘んで食べるセンダン科のチャンチン。中国ではツバキは「山茶」「油茶」と呼び、搾油を目的として栽培されてきた。

これに対し日本人は、暗く長い冬の終わりを告げる真っ赤なツバキに特別な感情を抱き、ツバキの花を愛でてきたことは栽培品種の数の多さや、ツバキの栽培が過熱し、何度も禁止令が出された史実からもうかがい知ることが出来る。

調布市の天然記念物シロハナヤブツバキ (シロヤブツバキのこと) は道路の拡張の折に移植され、半分枯れてしまっただが、布田の品川道脇、ツバキ地蔵に現在も健在だ。

白花は稀に突然変異で生じるが、珍しいので古い時代に地蔵の安置された場所に植えたのだらう。当時ムラサキを使った草木染めが行われており、その媒染剤にツバキを燃やした灰が使われた。また地名 (染地) にも残っており、このあたりにはたくさんさんの椿が栽培されていたのかも知れない。

## ◆榎本勉さんのお話

昭和13年上ヶ給 (国領町あたり) 生まれ

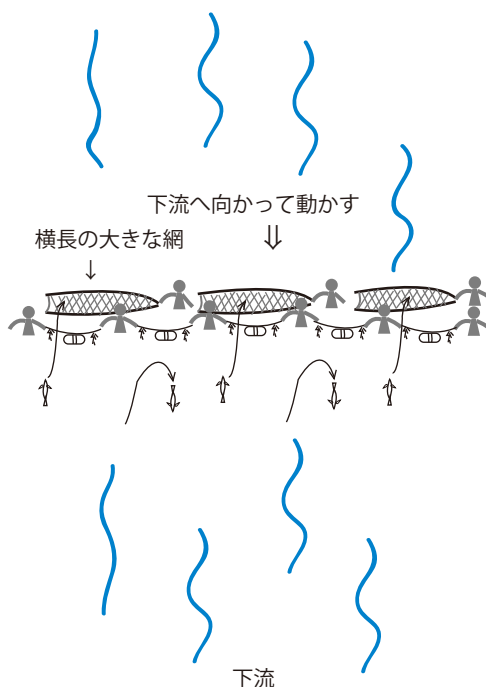
### ◆はねつびき漁 (はね網)

昭和の始め頃の上ヶ給村は16世帯ほどしかなく男手が少なかったけど、村にははねつびきの漁具があつたんだ。当時下肥のやりとりなどで行き来があつた川崎市の中之島の人達に声をかけたんだらうなあ、一緒に夏の昼休みに二ヶ領上河原堰の下流あたりに行ったという。

大きな網を持ってすくうんだ。

※ウラジロ (シロダモ) は葉の裏側に密生する毛に気泡がつき白銀色に光るので、はね網には最適なのだが上ヶ給にはシロダモの樹が無かったようでヨモギやヤナギを使っていたとのこと。

## 昔の多摩川... ⑥



### ◆足半 (あしなか) わらじ

わらじぞうりの前半分の形でできている。川で漁をする人達は川底の石に藻が付いてすべりやすいので、滑り止めと足先の保護のため、このようなぞうりをはくことが多かった。農家での冬のワラ仕事の一つだったようだ。



調布市郷土博物館蔵



## ちょうふの崖線樹林を守る

## 入間・樹林の会

1月18日(日) 晴れ 参加者9名

方形枠調査と懇親会をおこなった。気温7度と去年より暖かく鳥の鳴き声をききながら懇親会を深めた。方形枠調査に関心のある初めての参加者もいて春になってからの花の季節が楽しみということだった。キチ



ジョウソウが大  
雨で流され植生  
密度100%近く  
だったのが10%  
になってしまっ  
ている。

2月15日(日) 晴れ 参加者21名

野鳥観察会と作業を行った。観察会には、4組の保護者と子どもが参加した。子どもたちのほうが素早く巣や鳥を見つけ、大人が後追いで子ども達の凄さに感心した。初めは見られなかったがシジュウカラ・エナガ・メジロなどのカラ類の混群を観察できた。



野鳥観察

3月15日(日) 晴れ 参加者11名

初参加者2人(2人目の雑木林ボランティア講座生も参加)を含め作業。シャガの広場のアジサイ群のアズマネササを刈り取るとすっきり見えてきて夏が楽しみになってきた。マテバシイ広場の伐採枝のスタッキングの片づけも人手があったのではかどりが、充実感が増した。(安部)



シャガの広場

## カニ山の会

1月10日(土) 晴れ 参加者11名

東樹林のイヌシデの根元でお供えをし、今年の作業の安全祈願を行った。その後参加者全員で東樹林を回りながら、今後の整備方針や作業内容、やってみたいイベントなどについて意見交換を行った。

キャンプ場で各自持ち寄りのお酒、鍋の具材、つまみを食べながら、今後の活動等について相談。

2月14日(土) 晴れ 参加者8名

東樹林中段の園路をはさみ上下のササ刈・上段にあるシラカシの枝おろしと片付け。そして落ち葉かき。最後にドンダリの森(キャンプ場北)に植えたケンポナシ4本の植え替え場所を検討。金網近くの東と北あたりに決めた。



3月14日(土) 晴れ 参加者9名

12月に続き、また1人雑木林ボランティア講座生が参加。3月は、植樹の苗木が成長してきたため、本来の場所に移植する予定であったが、メンバーが多忙で準備等が間に合わないため植樹延期することとし、先月に引き続き通常の活動(ササ刈り・階段補修・キャンプ場北側緑地のロープ柵補修)を行った。シュンランが沢山顔を出し、一同感激。

またメンバーが持参したコナラ苗(1.2m程度)を緑地北側に植樹した。(活動報告より)



シュンラン

## 若葉の森3・1会

2月1日(日) 快晴 参加者7名

1月はお休みで今年最初の活動日。初参加1名。第1緑地で伐採した小木などでコンポスト柵を補修。柵内の落葉を除きギンランの育成のために陽光を確保。六別坂と通路の落葉かき。ゴミ拾い。

3月1日(日) 曇りのち雨 参加者4名

前半は、翌日の枝打ち・伐採樹木選定の準備調査。考え方は「①危険対応…倒木や落下の恐れのある幹・枝 ②敷地からはみだした幹・枝 ③陽光と眺望の確保 ④不要な小中木の間引き」。第1緑地と第2緑地の通路や階段の落葉かき。ゴミ拾い。後半の第2緑地のキンラン植生区域の柵(ロープ・杭)製作作業は途中で降雨中止。



↑落ち葉掻き↓



3月2日(月) 参加者3名

前日の準備調査をもとに、市職員・市の委託業者と枝打ち・伐採樹木を選定した。◆3月10日から数日間、業者により第1緑地、第2緑地の枝打ち・伐採作業が行われた。切った材を原則緑地内に残した。コンポスト柵や土砂流失止めの材料にする予定。

高所作業車で枝打ち・伐採



切られた材

## 都市河川で水辺に親しむ講座 3月10日(火)

講師 大澤浩一  
(よこはま流連代表)  
参加者6名

多摩川市民広場の南あたりに位置する川べりにはワンドと呼ばれる場所がある。15年以上も前に作られ、完成当初は植物の種類も多く自然観察やガサガサと呼ばれる小魚捕りの場所としても市民に親しまれていたが、台風や大雨の影響にも補修がされなかったことでその姿形は著しく変貌。現在は濁った小さな水たまりが残るのみとなっている。

そこで今回、ワンド周辺の多摩川べりを観察、多摩川の自然について考える講座を企画した。

○川の流れの変化により流れてきたのか新しく砂利洲ができて河原らしい雰囲気の間所があった。

○前日の雨のせいか伏流水による透明な水たまりや水路ができており小魚のオイカワが沢山見られた。

○反面、治水工事により削られた河原では、以前見かけられたハナウドやクワは見られなくなった。

○河原には目印がほとんどないため、以前のようすを思い出すのが難しかった。

今後は感想でできたような自然を活かす工夫を、行政と共に考えていきたい。

(ちょうふ環境市民会議 N.K.)



湧水にオイカワ



ちょうふの自然

みつけた!

メールでいただいた情報です

●3/22 深大寺北町6丁目で鶯の初鳴きを聞きました。(KT)

▼以前もウグイスの情報をいただいたことがあったな、と自然だよりを探してみたら2011年には「3月11日にカニ山で初鳴きを聞きました。」とお便りが載っていました。初鳴きを聴くのは難しいですが、サクラの開花などは10年記録しただけでもかなりの違いがみられ、近年は3月中に満開になることが多いそうです。(NK)

●3/22 鳥は野川公園付近で撮った写真です。右上の鳥の種類がよくわかりません。マメザクラは深大寺水神苑の物(SN)

▼カシラダカのようなです。頭頂に短い冠羽がある冬鳥です。(AS)



ジョウビタキ



カシラダカ



マメザクラ



シメ

●3/21 歩道に咲いたスミレと佐須用水で生まれたヒキガエルのオタマジャクシです。(YO)



▼スミレは可憐な姿に似合わずこんな風に乾いたアスファルトの隙間に咲くことが多いですね。タチソボスミレにしては葉が長いように見えますが。(NK)



●3月下旬、若葉の森で撮った葉芽の写真。葉芽がこんなに色彩豊かとは、ビックリです。小さいけど、生命力がみなぎっている感じがします。樹種はイヌシデだともいます。

それと我が家の小さな池に、春になると、ガマ(ヒキガエル)のカツブルが現れ、卵を産んでいきます。数年前、点検のために屋外のガスボイラーのカバーをはずしたところ、内部に棲みついているらしい1匹が発見され(地面とカバーの間に隙間があった)、昨年1月初めには庭に落葉を埋める穴を掘っていて、冬眠中のを掘り出してしまったことがあります。繁殖シーズン以外にも、この近辺で暮らしているようです。

2011年以降、親ガエルとオタマジャクシの「初見日」(正確にはノートに記入した日)を妻が記録しているのですが、今年は5年間で初見が一番早かったです。記録によると、だいたい3月に入ってからカツブルの状態「包接」というそうですが見られるのですが今年は包接状態を2月25日に発見。

オタマジャクシは例年4月5日〜10日ごろが初見日ですが、今年は今日3月29日でした。

この冬、関東地方は雪は少なめでしたが、「東日本では4年連続の寒冬だった」とのこと(3月2日、気象庁発表)くだんの池にも1月2月は毎朝のように氷が張っていました。我が家のガマの「子育て」が早目なのは気温とはあまり関係なさそうです。

もう1枚。これってなんでしょう?ボウフラの脱皮した脱殻のようにも見えますが。(TO)

●3/29 庭では今年はスミレがとても元気で、株が大きくて、花もきれいです。ナズナは三角の実を付けて、花もボチボチ終わりです。タネツケバナは花も実あり、最盛期を迎えています(KK)

▼コスミレかな?(NK)

※メールでの呼びかけにたくさんの方の写真をありがとうございました。



環境市民活動スケジュール

人間・樹林の会

原則毎月第3日曜に樹林の保全活動を行っています。参加希望者は直接人間地域センターへ。

●4/19(日) 9:30〜15:00  
●5/17(日) 9:30〜12:30

カニ山の会

毎月第2土曜に自然広場で保全活動を行っています。野草園横直接集合

●4/11(土) 10:00〜14:00  
●5/9(土) 10:00〜12:00

若葉緑地の会

原則毎月第2日曜に若葉町3丁目第3緑地で保全活動を行っています。参加希望者は直接現地へ。

●4/12(日) 9:30〜12:00  
●5/10(日) 9:30〜12:00

若葉の森3・1会

原則毎月第1日曜に若葉町3丁目第1・2緑地で保全活動を行っています。参加希望者は直接現地へ。

●4/5(日) 9:30〜12:00  
●5/3(日) 9:30〜12:00

先の4団体の保全活動は「調布市との協働」で行っています。  
問:緑と公園課 042-481-7083

雑木林ボランティア講座

5月30日から全6回  
調布に今も残る里山の風景や雑木林を市民と市の協働で保全していくためのボランティア養成講座です。  
問:環境政策課 042-481-7086

市民発 ちょうふの自然だより

◆「ちょうふの自然だより」はカンパとボランティアで支えられています。2009.3.15に設立された市民団体「ちょうふ環境市民会議」が発行しています。隔月で1000部発行。調布市内の身近な自然情報や市民の保全活動の記録、環境イベント案内、コラムなどを掲載。市民会議ホームページにバックナンバーを掲載しています。併せてご覧下さい。

発行: ちょうふ環境市民会議 連絡先: info@chofu-kankyo-shimin.org

“自然だより”の置き場所

◆地域福祉センター、たづくり 11F みんなの広場、調布市環境部(市役所8F)、あくろす 2・3F、郷土博物館、実篤記念館、多摩川自然情報館のほか、神代植物公園植物多様性センター、野菜食堂みさと屋(布田)、ニワコヤ(仙川)、ウェアハウスガーデン(柴崎)など。置き場所&応援カンパ募集中です!

※携帯メールでのお問合せには当方の返信が届かない場合があります。

◆この自然だよりは ちょうふ環境市民会議ホームページにも掲載しています◆